



(大阪東北部)

大阪・大坂城跡

岸ができるまでは川原だったところで、共伴する陶磁器は石山本願寺時代を示すが、豊臣時代前期に陸地を造成する際に動かした土の中に混入した遺物と考えられる。

1 所在地 大阪市中央区大手前一丁目

2 調査期間 一九九四年（平6）一〇月～一二月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 黒田慶一

5 遺跡の種類 近世城郭跡

6 遺跡の年代 安土桃山時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大坂城跡は天正一一年（一五八三）の秀吉による大坂築城に始まるが、その下層には難波宮・京跡、石山本願寺跡が存在する。

調査地は大川（旧、淀川）の南岸、天満橋OMMビルの南向いの大坂歯科大学構

内である。豊臣氏大坂城の北外郭、淀川に面した護岸石垣などを検出したが、木簡はその下層のシルトを主体とするTP土〇m前後の包含層中から出土した。護

8 木簡の釈文・内容

(1) 南無妙法^{〔法カ〕}

(74)×24×0.5 081

紙のよう薄く削った木に経文を写したものであることから、経

木の一部である可能性が高い。当地は石山本願寺時代には、寺内町またはそれに近接する地域と推定される。淨土真宗の宗徒が法華経の経文を書くわけがないので、豊臣時代に大坂に移ってきた日蓮宗の宗徒によるものであろう。

9 関係文献

黒田慶一「豊臣氏大坂城の北外郭」（大阪市文化財協会「葦火」五五
一九九五年）

（黒田慶一）

